



## 第1回 考査 終了

高校最初の考査が終了し、間もなく個人成績票が渡されます。5月の連休明けから高体連の大会等が催され、学習と部活の両立の難しさを実感しつつ、考査に向けての準備をしてきたことと思います。皆さんの「学習の記録」を見てみると、考査に向けて、平日1日4時間の学習をコンスタントにこなしている人もいれば、1時間にも満たない学習時間の人もいました。中学校ならば「一夜漬け」の勉強で大丈夫だった人も、高校の考査はそういう訳にはいかないと実感したはずです。

### ～考査結果を正面から受け止めて、少しずつ変えていくこと～

今回の考査で、自分の学年順位や教科内順位が、これまで経験したことのない数字になり多少ショックを受けたとしても、考査の点数に一喜一憂するのではなく、丁寧にその「振り返り」をし次に繋げることが大切です。つまり、これから少しずつ軌道修正すればいいのです。ただし、「やらなかったからできなかった」という言い訳はやめましょう。この言葉は、「やろうとしたが、机に向かうことができなかった」「やろうとしたが、持続させることができなかった」という、本人の意志の弱さを示すことになるでしょう。こういう言葉で、自分の現実と正面から向き合うことを避けていると、将来本気で受験に打ち込もうとしたときに、「やろうとするが、基礎力もないし学習習慣もないから、結局最後までできない」という厳しい現実と直面することになります。実際、そうして進路目標に到達できなかった先輩が、残念ながら少なからずいます。

本校へは、地域の各中学校の上位者が集まるのですから、ここでそれなりの成績を収めるには努力が必要です。人間、意識をしなければ、自ずと「楽」な方へ流れて行きます。皆さんは、それぞれ高い志を持って入学してきたのですから、自分を律し、目標に向かって地道に取り組んで欲しいと思います。「我慢」と「継続」です！

### 各教科の基礎力を定着させることができる家庭学習時間の目安は

#### 1週間で学習すべき総時間は2.1時間

- (例1) 平日(月～金) 2時間ずつ学習するならば  
→土・日は5～6時間ずつ学習する。
- (例2) 平日(月～金) 3時間ずつ学習するならば  
→土・日は3時間ずつ学習する。

★同じ時間勉強しても、その質を高める工夫が必要！！

### 進路希望調査結果(平成28年5月末実施)

文理・科目選択説明会開催の直前に調査した際の結果。  
希望の多かった学部は、下記の通り。

#### 文系 135名

文系教育学部 30名、 文・人文学部 29名  
法学部 17名、 外国語学部 15名

#### 理系 142名

医療保健学部(医学部以外) 36名  
工学部 35名、 理学部 29名

### ～6月の主な行事～

- 6月上～中旬 面接週間  
6/10(金) 文理・科目選択希望用紙配布  
6/14(火) 芸術鑑賞教室(短縮4校時授業)  
6月中旬 生活時間帯調査  
6/22(水) 文理・科目選択希望用紙提出締切  
6/25(土) 考査前学習会(希望者)  
6/28(火) 第2回定期考査  
～7/1(金)

## 『学而の決意』を読む

平成28年度版の『学而の決意』が間もなく配布されます。1年生は初めて聞く名前  
で、「また、学而？」と思うかもしれませんが、大学進学に関する資料集で、毎年6月中  
旬には発行されている本校独自の進学分析資料です。主な内容は次のとおりです。

- (1) 2016年度大学入試が、全国的にあるいは本校においてどのようなものであったか。
- (2) この春本校を卒業した先輩方の、センター試験・模試成績と合否状況
- (3) 合格者の体験記

1年に1冊ずつ、配付されるので、3年間で3冊になり、3ヶ年分のデータを参考に  
できます。毎年の冊子を集めてみると、次の①～③について、多くの情報を得ることが  
できます。

- ①志望する大学には、どのぐらいの成績で合格できるのか。
- ②全国の入試状況はどう変化しているのか。
- ③先輩の勉強方法や生活の仕方

次に、この冊子を利用する際の注意点をあげます。

- センター試験の各教科・科目の平均点については、「高い」「低い」だけで自分の教科選択の参考にしない。**

あくまで、平均であって人によって変わるものであるし、年によっても各科目は難し  
くなったり、易しくなったり変化するものである。また、大学の土台になる基礎知識を  
身につけておくことも、高校の勉強の役割でもあるから、特に1年生の科目選択ではそ  
のことも踏まえた方がよい。

- 「合格体験記」は、自分とは性格や学力・能力が基本的に違う人が書いているのであ  
ることを忘れない。**

勉強方法は自分に合わせてできあがってくるものである。全部まねる必要はない。  
あくまでも参考にするという姿勢を持つこと。

- 「決意」から何を学びとるかは、実はその人自身の興味関心や能力にかかっている。**

例えば、何らかの分野で素晴らしい成果をあげている人を見て、「すごいなあ」と思  
うだけの人と、どのようにすれば同じようにできるかを分析的に見ている人では、その  
あとの行動に与える影響の大きさが全く違う。志望目標に達するためにはどんな力が必  
要なのか、不足要素をどのようにして補うのかを考えて『学而の決意』を読んでほしい。

学ぶということは、自分が変わるということである。今まで見えなかったことが見え  
ようになり、ある事柄への強い関心が生まれるようになる。その時、以前の自分では  
ない、新しく変化した自分になる。

『学而の決意』により、それぞれの「生活が変わる」こと、その結果として「学習の  
達成度が変わる」ことを期待する。それが、志望実現の道を前進するということである。

★なお、資料を読み取る観点や見方については、各クラスのLHR等で説明をします。